

日時・会場

10.12<sup>2024</sup>  
Sat.  
12:00 - 13:00

第7会場

北國新聞赤羽ホール  
赤羽ホール

# 続発性骨粗鬆症の診断と治療

座長

小川 純人 先生

東京大学大学院医学系研究科  
老年病学 教授

演者

今西 康雄 先生

大阪公立大学大学院 医学研究科  
代謝内分泌病態内科学 准教授

参加登録のご案内

<https://www.jos2024.org/sanka.html>  
ランチョンセミナーは事前申込制です。事前申込期間：2024年9月2日(月) 正午 ~ 9月25日(水) 正午  
詳細はホームページ (<https://www.jos2024.org/>) をご覧ください。

※当日の整理券配布はございません。

第26回日本骨粗鬆症学会

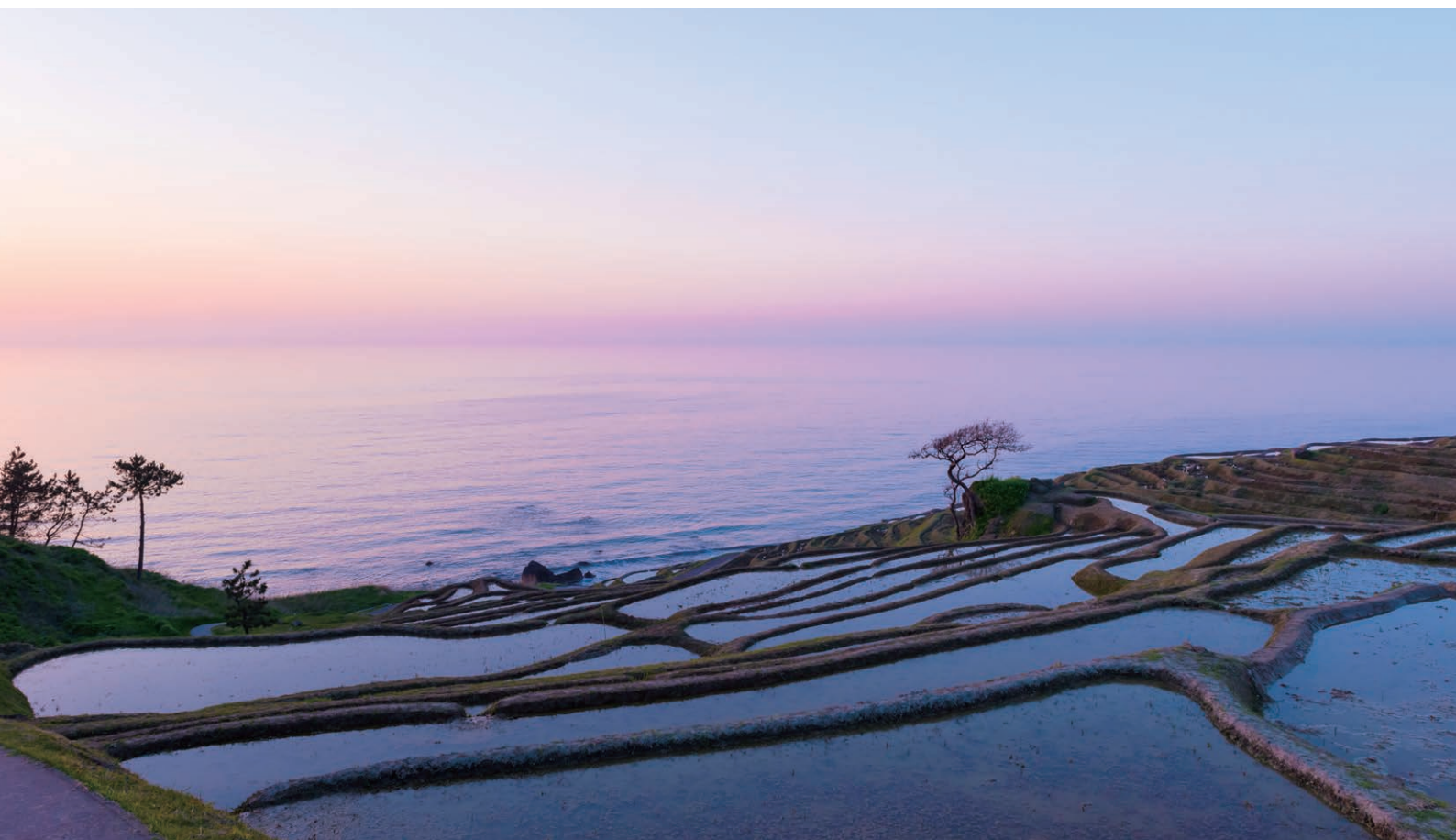
検索

認定単位

日本整形外科学会教育研修単位の1単位が取得できます。  
(受講料：1講演 1,000円)  
・専門医資格継続単位 必須分野：4. 代謝性骨疾患 (骨粗鬆症を含む)

※お申込み方法

9月中旬より参加登録と一緒に申込可能です。  
既に参加登録がお済みの方はご自身のマイページより追加登録ができます。  
詳細はホームページにてご確認ください。  
<https://jos2024.org/>



## 続発性骨粗鬆症の診断と治療

**今西 康雄** 大阪公立大学大学院 医学研究科 代謝内分泌病態内科学 准教授

原発性骨粗鬆症には、閉経後骨粗鬆症のみならず、男性骨粗鬆症、そして妊娠後骨粗鬆症を含む特発性骨粗鬆症が含まれる。一方、続発性骨粗鬆症として考慮すべき疾患は、数多く存在する。骨粗鬆症患者の中から、続発性骨粗鬆症を鑑別するためには、医療面接、身体所見、画像診断、そして血液・尿検査を駆使して行うことが重要である。医療面接においては、既往歴や生活歴を聞き出すとともに、使用薬物に関する情報を聴取することが重要である。見逃してはならないのが、薬剤性骨粗鬆症である。関節リウマチや自己免疫性疾患、移植等においてグルココルチコイド（ステロイド）が使用されることが多く、グルココルチコイド性骨粗鬆症は医原性骨粗鬆症の最大の要因である。また、乳癌、前立腺癌などのホルモン依存性癌に対しては、癌治療関連骨減少症が危惧される。

各疾患に特徴的な身体所見に注意することも、重要である。クッシング症候群における中心性肥満や、甲状腺機能亢進症における頻脈や体重減少等についても、確認が必要である。若年よりの骨折歴や骨折家族歴、そして青色強膜、歯牙形成不全といった身体所見より、骨形成不全症が発見されることもある。マルファン症候群では、マルファン様体型と表現される、クモ状指、高身長、側弯、胸郭変形などの所見が大切である。

画像診断や血液・尿検査において異常を認めることで、続発性骨粗鬆症の発見につながることもある。このような症例を見逃さず、原疾患の鑑別を行うとともに、適切な治療を提供していくことが重要である。